

# “コーヒー高”の正体に迫る

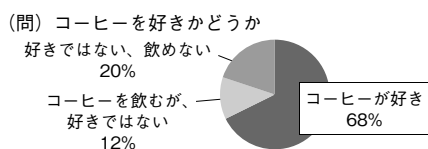
大臣官房総合政策課 調査員 齊之平 大致／酒井 亮

昨今のコーヒー価格の動向を踏まえ、背景や見通しについて考察した。

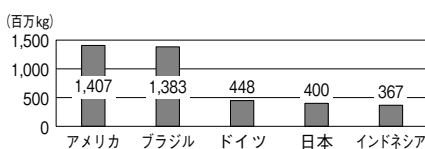
## 日本のコーヒー消費

- ・日本では嗜好飲料としてコーヒーが好まれている。インターネット調査によると、20代以上でコーヒーを好きな人の割合は68%に及ぶ（図表1）。現に日本のコーヒー消費量は世界で4番目に多く、日本は世界有数のコーヒー消費国であるといえる（図表2）。
- ・家計調査の結果からもコーヒー人気が見て取れる。他の代表的な嗜好飲料である紅茶や緑茶と比べても、日本の家計におけるコーヒーの消費金額・消費量は非常に大きい（図表3）。コーヒーの飲用場所は家庭と学校・職場が大半を占め、特に家庭で飲用する割合が近年増加傾向にある。コーヒーが身近な嗜好飲料として定着していることが分かる（図表4）。
- ・コーヒーを値上げした場合の対応に関するアンケート結果では、“飲む量や頻度を減らす”回答割合が26%あったものの、コーヒー消費を続ける人の割合は合計で69%と高く、代替コーヒーやコーヒー以外の飲料に変更する割合は合計12%であった（図表5）。家庭に欠かせない嗜好飲料であるからこそ、価格の動向について注視する必要がある。

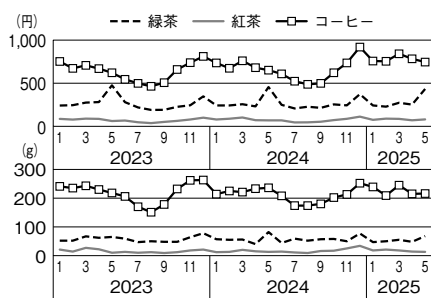
（図表1）コーヒーに関するインターネット調査



（図表2）コーヒー消費量（2023年）上位国

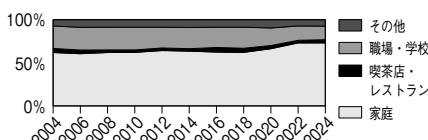


（図表3）コーヒーの消費金額（上段）と消費量（下段）

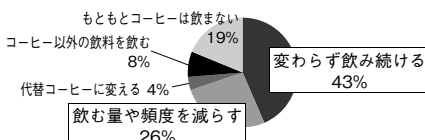


（注）家計調査「2人以上の世帯」における、月あたりの消費金額及び消費量の推移。コーヒーは、粒・粉末・個体などのもの。

（図表4）日本のコーヒー飲料場所推移



（図表5）コーヒーが値上げした場合の対応に関する調査



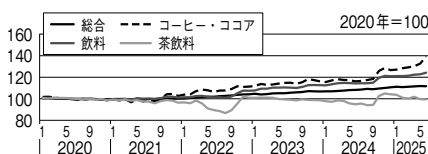
（注）図表1は2024年、図表5は2025年にクロスマーケティング社によって実施されたインターネット調査。両調査とも、20代から60代までの各年代へ、220名ずつ（n=1,100）調査を実施している。

（出所）全日本コーヒー協会HP、総務省「家計調査」、クロスマーケティング「コーヒーに関する調査2024、2025」

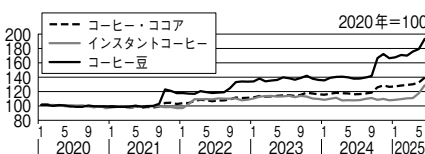
## コーヒー価格の動向

- ・消費者物価指数を確認すると、コーヒーに関する品目では上昇トレンドが目立つ（図表6、7）。嗜好飲料の中でもコーヒー・ココアの価格が高騰しており、コーヒーに類する品目の内訳を見ると、特にコーヒー豆の高騰が顕著である。原材料であるコーヒー豆の価格上昇に釣られ、コーヒー関連価格が広範囲で高騰していると推測される。
- ・コーヒー豆は生産している国や地域が偏在しており、日本を初めとした多くの国が輸入に頼らざるを得ない品目であるが、輸入単価は年々上昇している状況である（図表8）。なお、世界的なコーヒー豆の市場価格も高騰しており、輸入価格と連動していると考えられる（図表9）。
- ・コーヒー豆は、品質や産地の異なるアラビカ種とロブスタ種の2種類が代表的な品種として挙げられるが、2024年頃より両種へ同じように価格高騰が起きている（図表10）。次項より、コーヒー豆の価格が高騰している理由や背景を深掘する。

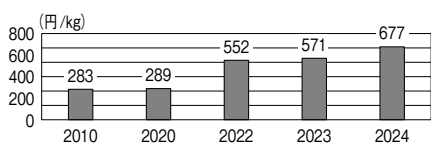
（図表6）消費者物価指数推移（総合・飲料）



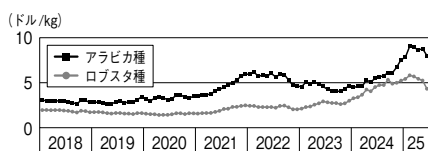
（図表7）消費者物価指数推移（コーヒー類詳細）



（図表8）日本のコーヒー輸入単価



（図表9）コーヒー豆市場価格の推移



（図表10）コーヒー豆の代表的な品種

|                  | アラビカ種            | ロブスタ種                         |
|------------------|------------------|-------------------------------|
| コーヒー豆全体の流通に占める比率 | 約6割              | 約4割                           |
| 特徴               | 味の品質が良く、高値で取引される | インスタントコーヒーなどに使用され、安価で大量生産しやすい |
| 主な生産地域           | 中南米やアフリカの山岳地域    | ベトナムやインドネシアの沿岸地域              |
| 栽培最適気温           | 15～24℃           | 24～30℃                        |
| 主要取引市場           | ニューヨーク市場         | ロンドン市場                        |

（出所）全日本コーヒー協会、総務省「消費者物価指数」、財務省「貿易統計」、武田淳「コーヒー2050年問題」、World bank group

コーヒー豆価格高騰の背景

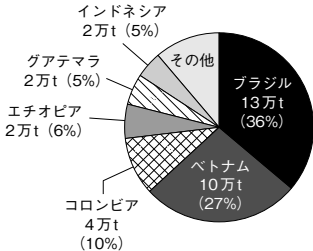
- ・ コーヒー豆の市場価格は、世界的な需給や生産者の状況、消費動向など複数の要因によって決定される。中でも生産者の動向に影響される面は大きいと見られる。コーヒー豆は生育可能な環境が限られており、赤道付近の一部地域に産地が偏しているためだ（図表11）。目下、世界のコーヒー豆生産の約半数がブラジルとベトナムの2か国に集中している（図表12）。
- ・ 我が国のコーヒー豆輸入においても、ブラジル・ベトナム両国への依存度は極めて高い（図表13）。コーヒー豆の国際取引は、途上国に多い生産国が主な輸出国、日本をはじめとした先進国が主な輸入国となる貿易構造を形成している（図表14）。
- ・ またコーヒー豆の生育は環境要因に対し極めて敏感であるため、気候変動の影響を受けやすい（図表15）。昨今の地球温暖化により、コーヒー豆生産へのマイナス影響が指摘されているところだ。加えて近年、コーヒー豆の主要生産国であるブラジルやベトナムにおいて、干ばつなどの異常気象が発生しており、コーヒー豆生産への深刻な影響が報告されている（図表16）。
- ・ このように、世界のコーヒー豆供給の主要な担い手国において供給ショックが顕在化している一方で、一部では中国をはじめとして世界的なコーヒー需要が伸びているとの報告もあり、需給の逼迫から市場価格が高騰しているのが実情だ。

（図表11）コーヒー豆を生産する主な地域

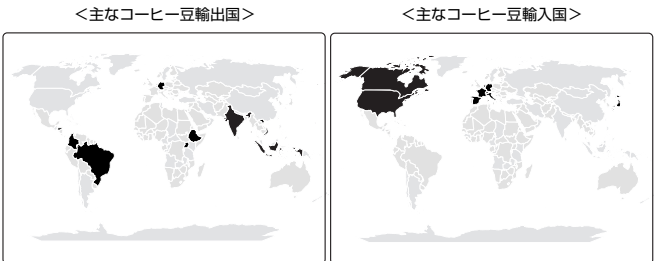


（注1）2023年暦年でコーヒー豆生産の多い上位15か国を黒塗りで示す。上位15か国の生産量は全世界の9割超を占める。  
（注2）生産国が集中する赤道付近の一部地域（灰色で着色）はコーヒーベルトと呼ばれる。

（図表13）日本のコーヒー豆輸入相手国（2024）

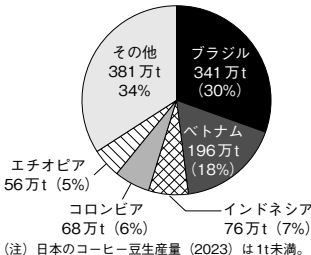


（図表14）コーヒー豆の主な貿易国



（注）2022年暦年でコーヒー豆の輸出入数量の多い上位10か国をそれぞれ示す。

（図表12）コーヒー豆の国別生産量（2023）



（注）日本のコーヒー豆生産量（2023）は1t未満。

（図表15）気候変動がコーヒー豆栽培に与える影響

|        |                                                                                                                |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気温上昇   | コーヒー豆の各品種では生育に最適な温度があるため、温暖化が進行すると生育不良となる。上記同様、生育のために最適な雨量があるため、生育期の雨季に降水量が少ないと生育不良となり、多いと湿度の高さにより病気発生リスクが高まる。 |
| 降水量の変化 | 気温上昇や降水量の増加などの要因により、感染リスクが高まる。                                                                                 |
| 病害     | コーヒー栽培の脅威となり得るコーヒーノミキクイムシなどが、気温上昇によりそれまで生息できなかった場所にまで分布が広がる。                                                   |
| 虫害     |                                                                                                                |

（図表16）コーヒー豆主要生産国における近年の異常気象

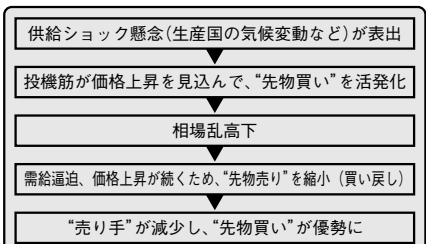
|      |                                    |
|------|------------------------------------|
| 2021 | ブラジルにおいて、霜害が生じたことによりコーヒー豆減産。       |
| 2023 | ベトナムにおいて、エルニーニョ現象による干ばつに伴いコーヒー豆減産。 |
| 2024 | ブラジルにおいて、20年ぶりの深刻な干ばつが発生。生産に影響。    |

（出所）国連食糧農業機関（FAO）、Bing、財務省「貿易統計」、武田淳「コーヒー2050年問題」、各種報道など

今後の展望

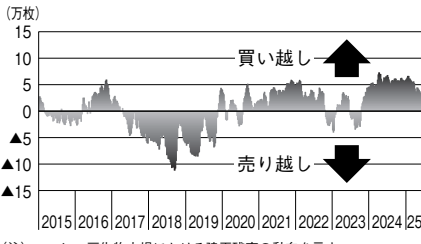
- ・ なお昨今のコーヒー豆市場価格高騰には、投機マネーの動向が関係しているとする指摘もある。コーヒー豆先物市場では、将来の価格変動に対するリスクヘッジから、「売り・買い」双方のポジションが作られる中で市場価格が形成される。しかし、需給逼迫によりコーヒー豆価格が上昇を続ける中、含み損を避けるために先物売りのポジションが縮小されている可能性がある。足下では売りポジション縮小による買い戻しと売り手減少の双方を受け、「買い越し」が続いている状況にある。（図表17、18）
- ・ このように実際の需給によらない事象も、価格高騰の一要因となっていることに留意が必要である。しかしながら根底となる背景には、全世界的な需要に対し供給国が一部地域に偏在する需給構造、そして昨今の気候変動リスクがあることに変わりないだろう。
- ・ 気温上昇などの気候変動は、コーヒー供給そのもののリスクとなり得るようだ。一部研究によると、地球温暖化により、コーヒー豆栽培に適した環境が2050年に世界全体で半減するとしている（図表19）。これは所謂『2050年問題』として知られている。
- ・ これまで述べてきた通り、コーヒーの実情について把握する上では、コーヒー豆のグローバルな需給構造について留意する必要があると思う。昨今のコーヒー価格高騰は、供給サイドに所在するリスクが表面化した事象といえよう。なお『2050年問題』はじめ、供給サイドの先行き懸念は根強い。さらなるコーヒー価格高騰の可能性についても念頭に置くべきであろう。

（図表17）商品先物価格高騰のメカニズム



（出所）商品先物取引委員会（CFTC）、日経新聞、Christian Bunn, Peter Läderach, Oriana Ovalle Rivera & Dieter Kirschke「A bitter cup: climate change profile of global production of Arabica and Robusta coffee」、各種報道など

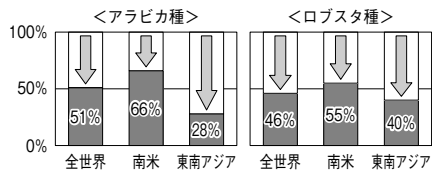
（図表18）コーヒー豆先物の売買動向



（注）コーヒー豆先物市場における建玉残高の動向を示す。

（図表19）『2050年問題』の概要

◆現在のコーヒー豆栽培適作地域のうち、2050年時点でも引き続き適作地域として持続している割合（現在を100%とする）



（注1）2100年の平均気温が産業革命時比1.4℃～3.1℃上昇ペースで進むシミュレーションに基づいた想定。  
（注2）出典は2014年時点。

（出所）商品先物取引委員会（CFTC）、日経新聞、Christian Bunn, Peter Läderach, Oriana Ovalle Rivera & Dieter Kirschke「A bitter cup: climate change profile of global production of Arabica and Robusta coffee」、各種報道など

（注）文中、意見に関する部分は全て筆者の私見である。